

未就園児の保護者が持つ子どもの人間関係に関する意識について

梨本 竜子・山城 いつき

Parents' Consciousness of Human Relationships of Their Children

Ryuko Nashimoto , Itsuki Yamashiro

1. はじめに

「少子化」という言葉が使われるようになったのは1990年代前半であり、その頃生まれた世代が今や親になりつつある。中央教育審議会報告「少子化と教育について」(2000)では、少子化が教育に及ぼす影響として、子ども同士の切磋琢磨する機会が減少することや、良い意味での競争心が希薄になること等の人間関係に関する課題をあげている。また、子ども同士の交流機会が減少することにより、子どもの社会性が育まれ難くなることも懸念されている。社会性とは、人との関係を調整する力である。子どもが同年代の他の子どもとかわる中で「遊具の取り合いで泣く」いった経験は、自分と違う相手の気持ちに気づく重要な機会であり、成長過程における必要不可欠な経験なのである。

しかし、現代では、そうした子ども同士のトラブルをマイナスなものとしか捉えられない保護者も多いのではないかと思われる。少子化では、少ない子どもを大切にしようと保護者の過保護・過干渉を招きやすくなることも危惧されている。保護者の意識や対応は、子どもの経験に少なからず影響を与えるものであろう。自身が少子化の中で育ってきた現代の若い保護者は、子どもの人間関係をどのように捉えているのだろうか。また、自身が保護者同士の関係に悩みを抱えていることも考えられる。

本稿では、未就園児の保護者が子ども同士の関係をどのように捉え、対応しているのかや、子どもの交友関係に関する悩み等について調査し、今後の子育て支援の在り方について考察していく。

2. 方法

(1) 調査対象・方法

2017年9～10月、新潟県T市内の子育て支援施設3か所に依頼して、施設を利用する未就園児保護者を対象に質問紙による調査を行い、105名より回答を得た。

(2) 調査内容

調査内容は、①回答者の年代・性別、対象児の年(月)齢・性別等、②対象児が他児とのかかわる

機会についての場所と頻度、③子どものトラブル場面における回答者自身の気持ち、④トラブルの際に自分の子どもにこうあって欲しい姿、⑤子どもの交友関係に関する不安や悩み（自由記述）、である。

3. 結果

(1) 属性

今回の調査では、回答者の性別は全員女性であった。年代は30代が最も多く半数以上を占め、次いで20代が約3割、40代が約1割の順であった。その他6名の年代は50～70代であり、子どもとの続き柄は不明だが、おそらく祖母ではないかと考えられる（図1）。

未就園児が2名以上いる場合には、上の子について聞いている。対象児の性別は男児56、女児49と男児が若干多く、平均年齢は1歳5ヶ月である。0歳代が最も多く、ついで2歳代、3歳代である（図2）。出生順としては、第1子が最多で約8割の88名、第2子が約1割の14名、第3子が2名である（未記入1名）。兄弟児の有無については、有りが約2割の23名であり、内訳としては、上に兄弟児がいるが16名、下にいるが7名、内2名は上と下に兄弟児がいる、である。

(2) 他児とのかかわりの機会

兄弟以外の子どものかかわりについて尋ねている。かかわる場所は、「子育て支援センター」が圧倒的に多く、「公園」「子育てサークル」「その他」の順である（複数回答）。その他の内訳は「友人宅または自宅」「習い事」「保育園」等である（図3）。かかわりの頻度は週2回程度が約3割で最も多く、ついでほぼ毎日、週1回程度、週2回程度の順である。その他の内訳としては、週3～4回という回答が多く上がっていた（図4）。

(3) 子どものトラブル場面における自身の気持ち

「これまで自分の子どもが他の子どもと遊具の取り合いのようなトラブルになる場面があったか」については半数以上の55人が「あった」と回答しており、あった場合その時の気持ちについて当てはまるものを「非常にそう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「ほとんどそうは思わない」の5段階で聞いている。

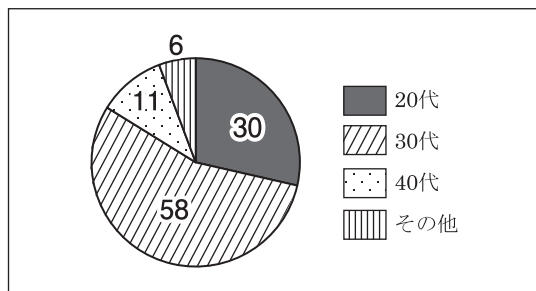


図1. 回答者年代

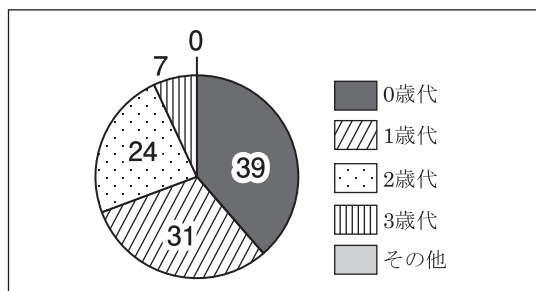


図2. 対象児年齢

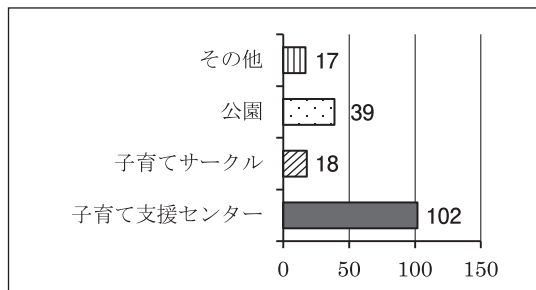


図3. 他児と関わる場所

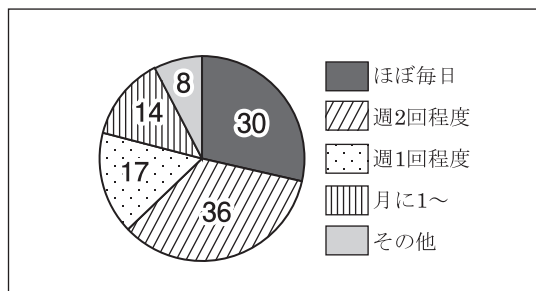


図4. かかわりの頻度

① お互い小さい子なのだからトラブルはあっても仕方がない

「非常に」と「やや」を合わせた「そう思う」が9割を超えている。ほとんどの保護者がトラブルがあることは仕方ないことと捉えている(図5)。

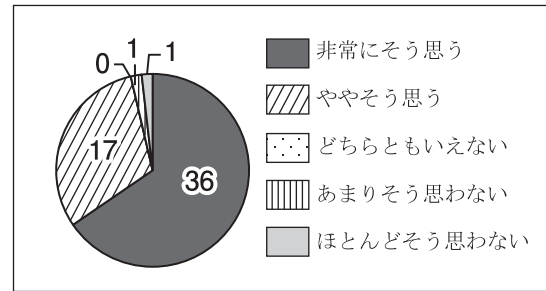


図5. トラブルは仕方がない

② けんかは良くないので、自分の子に譲らせよう
「どちらともいえない」が半数近くと最も多かった。

「非常に」と「やや」を合わせた「そう思う」、つまり自分の子に譲らせるという回答が約3割であった。「あまり」「ほとんど」を合わせた「そうは思わない」はそれよりやや少ないが2割を超えている(図6)。

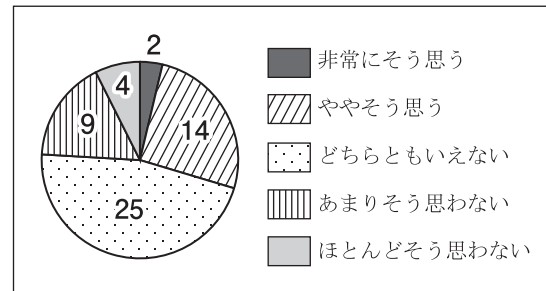


図6. 自分の子に譲らせよう

③ 子ども同士のことなので、なるべく見守ろう

「非常に」と「やや」を合わせた「そう思う」が半数以上であり、子ども同士のこととして見守りたいと思っている保護者が多い結果であった。「あまり」「ほとんど」を合わせた「そうは思わない」は1.5割であった。「どちらともいえない」も3割と前項目に続き多かった(図7)。

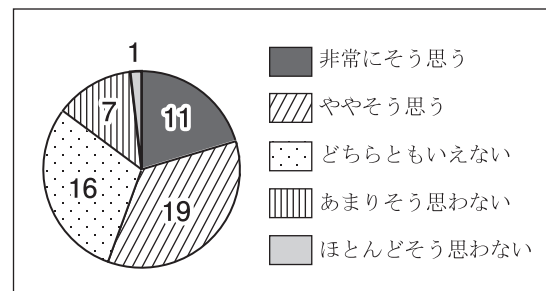


図7. なるべく見守ろう

④ 相手の保護者にも間に入って仲裁して欲しい

「非常に」と「やや」を合わせた「そう思う」が4割近くであり、多くの保護者は相手の子どもの保護者にも間に入って欲しいと思っているという回答であった。「あまりそう思わない」「ほとんどそうは思わない」は2.5割である。「どちらともいえない」は約3割であった(図8)。

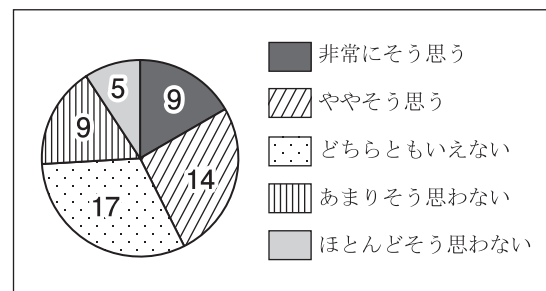


図8. 相手保護者にも仲裁して欲しい

⑤ 相手の保護者がどう思っているか心配だ

「非常に」と「やや」をあわせた「そう思う」と相手の保護者の気持ちを心配する回答が7割近くを占めた。「あまり」と「ほとんど」の「そうは思わない」はどちらも0である。「どちらともいえない」は約2割という結果であった(図9)。

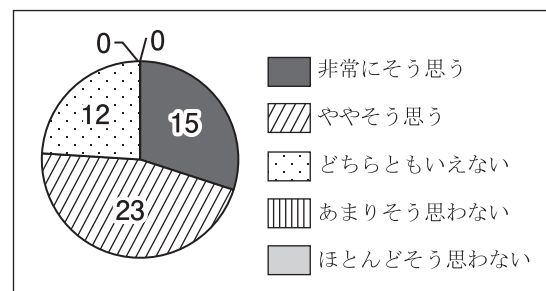


図9. 相手保護者がどう思うか心配

⑥ その他感じたこと、思ったこと

自由記述である。「見守りたいとは思いますが、つい止めてしまう」「使っているおもちゃを、年下の子が欲しがった時の対応が難しい」「月齢や個人の性格によっても違う」「小さいうちは見守るよりも親が間に立って、コミュニケーションの取り方を教えてやるのが良いと思う」「泣いても怒っても互いの成長の糧になること」「先に使っていた方が優先なので、他のおもちゃをあげる」等であった。

(4) 子ども間のかかわりで自分の子どもにこうあって欲しい姿

① 他の子が「貸して」と言ってきたら貸してあげられると良い

「非常に」と「やや」を合わせた「そう思う」が8割を超えた。約1割が「どちらともいえない」であり、「あまり」と「ほとんど」の「そうは思わない」はどちらも0である(図10)。

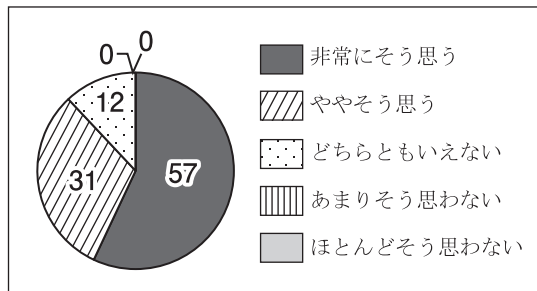


図10. 貸してあげられると良い

② 同年齢の子は別として、自分より小さい子には譲れると良い

「非常に」と「やや」を合わせた「そう思う」が9割を占めた。ほとんどといっていい保護者が、あるべき姿として年下には譲れると良いと考えている(図11)。

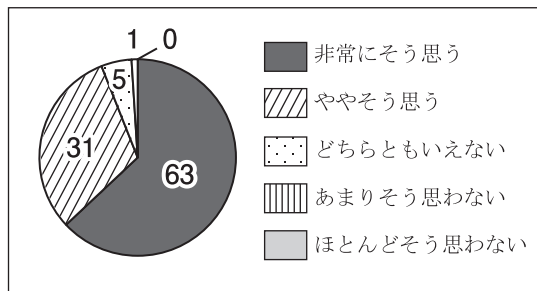


図11. 小さい子には譲れると良い

③ 使いたいものを他の子が使っていたら、貸してくれるよう言うことができると良い

「非常に」と「やや」を合わせた「そう思う」が8割を超えた。多くの保護者が子どもに自分の気持ちを言葉で主張できることを期待していると言える(図12)。

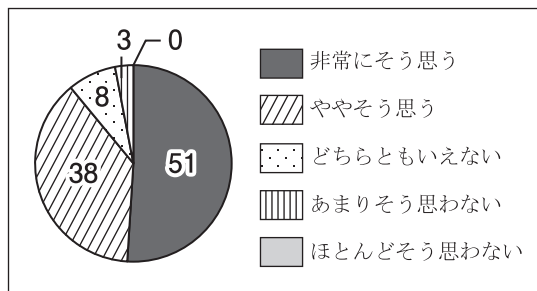


図12. 貸してと言うことができると良い

④ けんかはなるべくせず、仲良く遊べると良い

これも「非常に」と「やや」を合わせた「そう思う」が8割近くであった。子ども同士のトラブルはなるべくない方が良いと考えている保護者が多いと言える(図13)。

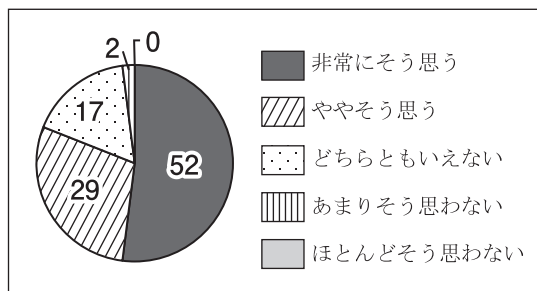


図13. けんかせず遊べると良い

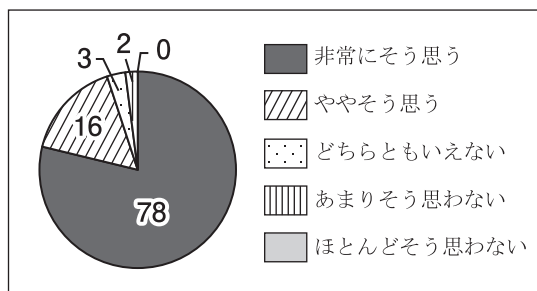


図14. すぐ謝れると良い

⑤ けんかをしてすぐ謝れると良い

これは「非常にそう思う」が最も多かった項目であり、7割を超える。「やや」を含めると9割であった(図14)。トラブルが起きた際、すぐに謝ることを重視している。

⑥ その他こうあって欲しい姿

自由記述である。「順番を待てるようになって欲しい」「相手の気持ちがわかるようになって欲しい」「断られたら別の物に気持ちを切り替えて欲しい」等の記述があった。

(5) 子どもの交友関係に関する不安や悩み

自由記述である。「近所に遊ぶ友達が少ない」「家族とは話すけど、人みしりで他の子どもと話さない」「家で家族をすぐ叩くので、これから友達を叩くようにならないか心配」「トラブルになった際、相手の親が知らん顔をしていると相手の子にどういえば良いか困る」「トラブルの際、どこまで見守ればいいのか難しい」「すぐ譲り過ぎるので、取り合いするくらい自己主張して欲しい」「自分が人と話すのが苦手で、子どもも同じにならないか心配」等の不安や悩みが挙げられていた。

4. 考 察

自分の子どもが、まだ「他の子どもと遊具の取り合いのようなトラブルになった経験がない」という回答が半数近くあったことは予想外であった。子ども同士のかかわりの機会があれば、当然トラブルは起きるものと考えていたからである。これは、今回の調査対象児に0歳児が多かったことから、未経験数が多かったと考えることも出来る。また、調査依頼した場所が子育て支援施設であり、対象児が他の子どもとかかわる場所は子育て支援センターが圧倒的に多かったことから、保育園等とは違い保護者の目が届きやすく、トラブルになる前に保護者が何らかの配慮や介入をしていることも予想される。

トラブルがあった場合の保護者自身の気持ちについて、全般的に「どちらとも言えない」とする回答の多さが目立った。これは「ケースバイケースであるため」ということかもしれないが、保護者が対応に迷っていることの表れと見ることもできるのではないだろうか。保護者は、乳幼児間のトラブルは「仕方のないこと」であり、「見守りたい」と思いつつも相手の保護者に気を遣っている様子が調査結果から読み取れた。自由記述にも、対応に迷い苦慮しているものも見られた。

また、自分の子どもに他児とのかかわりの際あって欲しい姿として、「言われたら貸してあげられる」「自分より小さい子には譲れる」「貸して欲しいと言える」「なるべくけんかせず仲良く遊べる」「けんかをしてすぐ謝る」のどの項目についても「そう思う」割合が高かった。乳幼児間のトラブルは「仕方のないこと」としながらも、起きたらすぐに解決したい、なるべくなら回避したい、という保護者の思いが感じられる。

先にも書いたように、子ども間のトラブルの経験は、子どもの自我の発達や社会性の発達等にとって重要な機会である。しかし、保護者がトラブルを「起こっても仕方がないが、できれば起こらない方が良い」ものとして考えていることは、子どもの成長にとっての大事な経験を奪うことにもつながりかねない。今後は、保護者に子ども間のトラブル経験の重要性が十分認識されるような取り組みの必要性を感じる。

5. おわりに

序文で「現代の若い保護者」と書いたが、今回の調査結果がかつての保護者の意識に比べ変化しているのかについては定かではない。年代によって意識や対応に違いがあるのかについても、今後調査したい。ただし、かつての保護者が子ども間のトラブル経験の重要性を認識していたかといえ、そうであるとは限らないであろう。兄弟や近隣に子どもの数が多ければ、結果的にけんかの発生する確率も高くなり、保護者が全てに介入することは不可能になる。少子化の中では、子どもに保護者の目が届きやすくなり、直ちに介入しがちになると考えられる。

子どもがけんかをした際には、相手の気持ちに気づくことが大切であるが、それには自分が玩具を取られる等されて「悲しかった」「悔しかった」という気持ちを経験することが必要である。そして、他児のものを取ってしまった時に「欲しかった」という気持ちに折り合いを付けるためには、周囲の大人がその気持ちを受け止めることが必要である。気持ちを受容することなく、ただ言葉だけで謝ることを強いても、子どもが相手を思いやることにはつながらない。

保護者に子どものトラブル経験が大切であることやその際の対応について知らせる手段としては、子育て講演会等だけでなく、実際の場면을捉えて子育て支援施設の保育者等が日々伝えていくことが効果的ではないかと考える。自らの育児や人間関係に悩みを持つ保護者が多い中、子ども同士のかかわりの経験を保障する場となる子育て支援施設の役割は、今後も重要性を増していると言える。

謝 辞

本研究を行うにあたり、調査にご協力をいただきました保護者の皆様、子育て支援施設の職員の皆様に、心より感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 井上健治・久保ゆかり編『子どもの社会的発達』東京大学出版会（1997）
- 2) 森上史郎・小林紀子・渡辺英則編『保育内容・人間関係』ミネルヴァ書房（2009）
- 3) 繁田進監・向田久美子・石井正子編『新・乳幼児発達心理学 ―もっと子どもがわかる好きになる―』福村出版（2010）
- 4) 無藤隆・内田伸子・斉藤こずゑ編『子ども時代を豊かに』東京学文社（1986）
- 5) 岩宮恵子「人間関係の失敗に敏感すぎる子どもたち」『児童心理』No71-16.1291-1297ページ（2017）
- 6) 竹中美香「乳幼児のけんかやいざこざへの対応に関する意識調査 ―乳幼児の子どもを持つ保護者へのアンケート調査を通して―」日本教育心理学会論文集No56. 217ページ（2014）
- 7) 古賀義「幼児の人間関係―けんかの意味について―」長崎純心大学・長崎純心大学短期大学部『幼児教育』No10.61-68ページ（1994）